



発行日 2024. 6. 1  
発行者 渡辺 真樹  
発行所 一般社団法人  
群馬県理学療法士協会事務局  
群馬県前橋市大渡町 1-10-7  
群馬県公社総合ビル 6F  
源流題字 浅香 満  
編集責任者 榊原 清

# 源流

No. 158

## Contents

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| ■群馬県理学療法士協会 会長挨拶 渡辺真樹                 | 02 |
| ■理学療法アラカルト「心理的安全性」について 渡辺真樹           | 03 |
| ■理学療法士のワークライフバランスを考える ワークライフバランス部     | 04 |
| ■事業報告 地域密着プロジェクト「健康安全運転講座」小野友也        | 05 |
| ■書籍紹介「変形性膝関節症の保存療法」 津金翼               | 06 |
| ■職場紹介「みんなのかかりつけ訪問看護ステーション前橋あずま」 金子早奈江 | 07 |
| ■後輩理学療法士へ 神倉駿一郎                       | 08 |
| ■ニュース源流 執筆のお願いとお知らせ                   | 09 |
| ■第 51 回基礎講座・症例検討会 開催                  |    |
| ■介護予防推進に資する指導者養成研修会 開催                | 10 |
| ■令和 5 年度協会指定管理者（初級）研修会 開催             |    |
| ■第 53 回技術講習会 開催                       |    |
| ■令和 5 年度中毛ブロック施設間連絡会 開催               | 11 |
| ■令和 5 年度第 2 回事例検討会（後期研修 E 講座） 開催      |    |
| ■会員動向                                 |    |
| ■ニュース收受 ■編集後記                         | 12 |

# 群馬県理学療法士協会 会長挨拶

一般社団法人 群馬県理学療法士協会

会長 渡辺 真樹



皆様こんにちは。会長の渡辺です。はじめに、元日に発生した能登半島地震において、被災された方々やお亡くなりになられた方々に、心からのお見舞いとお悔やみを申し上げます。また、J R A T 隊員として現地でご活躍された皆様に、敬意を表します。

さて、会長に就任して約 1 年が経ちました。気が張り詰めた状態のまま駆け抜けてきた感じであり、もう 1 年経つのかというのが正直な感想です。この 1 年間は可能な限り現地に赴き、さまざまな経験をさせて頂きました。それらの経験を踏まえ、今皆様にお伝えしたい事を三つ述べさせて頂きます。

一つ目は政策活動についてです。今年度のトリプル改定では今までにない医療職の賃上げが盛り込まれました。この決定がなされるまでには、全国的なロビー活動の展開やリハ議連などの中央集会で多くの国会議員からリハ専門職への理解を得るなど、関係者による並ならぬ努力がありました。この一連の活動に参加して思うのは、自分たちの職域を発展させるには政治力が必要だということです。診療報酬改定の中身では一見急性期がプラスになったように思えますが、体制を整えるのに課題があったり、回復期では加算が包括され、実質マイナスとなるような結果になったりしています。このような課題にも、次回の改訂までにはすぐにでも政策活動に取り組んでいく必要があります。是非、皆さんも政策活動に関心を寄せいただければと思います。

二つ目は組織率についてです。政策活動にも大いに関係するところがあります。組織内代表議員が大きな声を挙げても、それを支える支持組織の組織率が低いと小さな声となってしまいます。昨今の組織率の低下にはさまざまな要因があるかと思えます。しかし、生涯学習が必要とされる専門職として、会員であることの意義を感じ取れるような組織にしていくことが重要です。そして、その組織に属することの必要性を十分説明することも重要です。私もブロック毎の新卒歓迎交流会等で語りかけていきますが、皆様の職場でも非会員の方に対して入会のお誘いをお願いできたらと思います。

三つ目は職域の拡大についてです。人口減少社会において、いつまでも健康で働き続けることができる社会が必要です。そのためには産業理学療法分野の普及が必要となります。労働年齢の引き上げが、結果として健康寿命の引き上げに影響します。そこで果たす理学療法士の役割はとても重要です。さらに、運動器の健康・日本協会は、学校における運動器検診の見直しとして、「認定スクールトレーナー制度」を構築し、理学療法士が学校で児童生徒等に対して保健指導的な役割を果たすことを期待しているなど、学童期から壮年期まで、障害予防としての理学療法士の活躍が期待されています。

様々な課題や期待に対応するため、今後もできることからコツコツと取り組んでいきたいと思えます。そのためには会員の皆様のご理解とご協力が不可欠です。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 「心理的安全性」について

公立七日市病院リハビリテーション技術科 渡辺 真樹

皆さんは、「心理的安全性」という言葉を聞いたことがありますか？医療安全や接遇、ハラスメントに関する委員会等のメンバーの方なら耳にしたことがあるかもしれません。医療現場ではとても大切なことなので簡単に紹介します。

治療成績が良い医療チームの方が、ミスの報告数が多いとの報告があります。逆の様に思えますが、なぜでしょう？患者さんの命がかかっている、人は「言えない」時があるからです。「やらかしてしまった時に言える」のが、心理的安全な組織と言えます。では、何故言えなくなってしまうのか？

例えば、課題が見つかって仕事が増えるだけ、アイデアを出してもダメ出しされる、挑戦しても失敗したら責められる、このように罰や不安を与えるチームが言葉を閉ざしてしまうのです。他にも、いつも機嫌が悪い、何を言っても否定から言われる、目を合わせて話さない等も影響します。罰と不安は行動を減らす効果があります。では、どうするとよいのか？

チームの心理的安全性を構成する4つの因子があります。

### 1. 話しやすさ

「何を言っても大丈夫」

### 2. 助け合い

「困ったときはお互い様、必要な時に助けを求められる」

### 3. 挑戦

「やってみようじゃないか、(失敗しても) ナイストライ！」

### 4. 新奇歓迎

「的外れな意見、大歓迎！的外れは早期にわかった方が良い」



つまり、心理的安全なチームとは、意見を言っても、助けを求めても、挑戦してみても、個性を發揮しても、認めてもらえるチームと言えます。

後輩が失敗したときの良い対応方法を示します。「WHY/なぜ」を問わないことです。「WHY/なぜ」を問うと、謝罪と言いつのスパイラルに陥り、改善や成長につながらないことが多いのです。おすすめの言葉としては、「WHAT/WHERE」に置き換えることです。「わからなかったところはどこ？」、もっと言えば「一緒に考えよう！」と寄り添う意志を伝えることも有効です。

皆さんの職場でも心理的安全性が高くなると質の向上につながり、結果的に仕事が楽しくなると思います。理学療法士という素晴らしい仕事が楽しくできたら最高ですね。

少しでも心理的安全性に興味をもたれたら、さらに深く学習することをお勧めします。

参考：認定病院患者安全推進協議会「医療現場に必要な心理的安全性とは～患者安全へ向かっていく組織・チームをつくる～」 株式会社 ZENTech 取締役 石井遼介

イラスト出展：「illust AC」 [https://www.ac-illust.com/main/search\\_result.php?word=チーム医療](https://www.ac-illust.com/main/search_result.php?word=チーム医療)

## 「当院の職員のワークライフバランスに対する取り組み ～職員への管理を通して～」

医療法人五紘会 東前橋整形外科病院 小保方 祐貴

東前橋整形外科病院の小保方祐貴と申します。私は現在、診療部長兼診療技術部長として、理学療法士 30 名、作業療法士 5 名、計 35 名のリハビリ科を含む計 6 科の管理をさせていただいております。今回、「ワークライフバランスを考える」というテーマをいただきましたので、当院のリハビリ科で行っている管理を通してワークライフバランスについて考えていきたいと思います。

以前、源流 No.152 にて「理学療法管理学を学ぼう」というタイトルで寄稿させていただきました。その中で、「Service profit chain (Heskett,1994)」という概念を紹介させていただきました。これは企業が従業員を大切にすることで、従業員のサービス品質が向上し、その結果顧客の満足度、そして企業収益につながるという考え方です。そのため、管理者として、職員のワークライフバランスを管理するのは非常に重要と考えます。しかし、職員ごとに価値観は様々ですので、職員のワークライフバランスを管理することは困難です。そのため、「ワークライフバランス社会の 5 つの活動分野」である「仕事・働き方」、「家庭生活」、「地域・社会活動」、「学習や趣味・娯楽等」、「健康・休養」の 5 つの分野ごとに当院で行っている取り組みをまとめたいと思います。

「仕事・働き方」では、人生の段階に応じた柔軟かつ過重な負担とならない働き方が実現できているかが求められます。当院では、60 床の病床に対して 35 名のリハビリ職員を揃えることで、1 日当たりの平均実施単位 16.2 単位、1 カ月当たりの平均時間外勤務時間 0.21 時間、職員 1 人当たりの平均有給日数 13.58 日（取得率 90.4%、公休数 122 日）となり、職員の柔軟かつ過重な不安とならない多様な働き方ができるように努めています。

「家庭生活」では、子育てや介護など家庭事情に応じて、充実した家庭生活を送れているかが求められます。先述の有給取得の推進に加え、子の看護休暇などの特別休暇の整備は当然のことながら、昨年度の育児休暇取得率は男女合わせて 83.3%という結果となり、男女とも希望する形で家庭生活を過ごせるように配慮しています。

「地域・社会活動」では、自ら希望するバランスで、地域活動等に参加する時間が確保できているかが求められます。当院では、スポーツチームに帯同する理学療法士が 8 名おり、先の選抜甲子園では大会期間中に理学療法士 1 名を出張として派遣するなどの対応をしております。また、地域活動としてウォーキングイベントや各種健康講座などに希望者が参加できるようにしています。

「学習や趣味・娯楽等」では、希望する形で学習や趣味・娯楽等のための時間が確保できているかが求められます。当院では、時間外勤務時間を可能な限り減らす取り組みを行い、先述の通りの時間外勤務時間となっております。また、有志参加による「研究勉強会」や「トレーナー勉強会」、「超音波エコー勉強会」を月 1 回程度開催し、職員自ら学びたい分野で学べる環境整備をしております。その甲斐もあって、令和 5 年度では、延べ 15 名の職員が学会発表を行うことができました。

「健康・休養」では、バランスの良い働き方で心身ともに健康に過ごせるかが求められます。当院では上記の取り組みを行うことで、過去 3 年間の退職率は 5.38%（全国平均 15%程度）、入職 3 年以内退職率は 2.1%（全国平均 37%程度）の状況となっております。

また、上記のような取り組みを行うことで職員の職場エンゲージメントの指標である eNPS（Employee Net Promoter Score）がリハビリ科全体で +6.6（医療・介護業界平均 -65~-57）という結果となり、当院で行っている取り組みが一定程度、職員に理解されているものと考えます。

現在は、リハビリ科全体としてのワークライフバランスの管理という形となっておりますが、今後は職員個々のワークライフバランスを評価できるように取り組んでいきたいと思います。

# 地域包括ケアシステム部事業報告

## ダイハツ工業(株)地域密着プロジェクト

### 「健康安全運転講座」

社会局 地域包括ケアシステム部 小野友也

加齢とともに、シートベルトの着脱やハンドル・ブレーキの操作、後方確認に必要な四肢と体幹の柔軟性が低下していきます。このため、高齢者は運転中に身体への負担が増し、疲労や不調を感じやすくなります。さらに、年齢を重ねるごとに注意力や筋力も衰えていくため、運転がますます困難になってしまいます。

#### 自由に移動できる自立した生活をサポート

「いくつになっても自由に移動できる自立した生活をサポートする」という活動趣旨に賛同した、産（ダイハツグループ・JAF）官（自治体）学（理学療法士協会）民（地域社会）が連携し、ダイハツ販売会社の店舗を活用した「地域密着プロジェクト」を進めています。群馬県においても2018年から「健康安全運転講座」を開始しています。

#### 健康安全運転講座の様子

令和6年4月23日(火)、群馬ダイハツ株式会社 伊勢崎店にて健康安全運転講座が開催されました。今回は地域住民14名の方にご参加いただきました。群馬県理学療法士協会からは3名の理学療法士が派遣され、握力、5回立ち上がりテスト、Trail Making Testを行い、運転に必要な能力の評価・フィードバック・運動指導を行いました。

講座の中ではJAFによる運転席からの死角の確認や、ダイハツ車を使用しての運転姿勢の評価や誤発進抑制機能の説明なども行われました。

当日講座に参加された方からは、「運転後にこんなに血圧が上がっているとは思わなかった」や「実際の年齢より注意力が若くて嬉しい」と悲喜こもごもの声が聞かれ、健康や運転について改めて考えていただく機会になったと思います。今年度は秋にも健康安全運転講座の開催が予定されています。



# \*\*\*\*\*書籍紹介\*\*\*\*\*



## 「変形性膝関節症の保存療法」

公立富岡総合病院 津金 翼

著者名：山田英司

出版社：運動と医学の出版社

価格：4,800 + 税



公立富岡総合病院の津金です。経験年数は15年目となり、今まで転職や異動を含め3病院と2施設で従事し、急性期病棟・回復期病棟・療養病棟・老健・通所リハ・デイサービスで働かせていただきました。高齢化に伴い高齢者を診る事が多く、その中で主病名以外に「膝が痛い」と訴える患者さん、利用者さんは少なくなく、身体を触る場所で一番多いのは膝関節でした。

私は変形性膝関節症の痛みに対して最も触る場面がありながら、どの組織が痛くて、なぜ痛くなるのか、また、どんな治療をしたらよいのか確信もなく、患者さんに対して十分な説明も出来ずにいました。そんな疑問や苦い経験を払拭できたのが、今回紹介する山田英司先生著書の「変形性膝関節症の保存療法」です。

山田先生は2021年に52歳をいう若さで他界され、本著が遺作となっています。変形性膝関節症の歩行運動力学に関して、膨大な数のデータや知見を基に作られていて、これだけの変形性膝関節症データを調査した医療者は存在しないと思われる程です。

本書の内容は理学療法のポイントとして「画像で捉えられた所見と痛みの症状は一致しない」「痛みを生じる組織や病態が多く存在する」「痛みの組織を同定しなければ、仮説検証は行えない」「痛みの組織へのどんなストレスがかかっているか、どんな理学療法で解決できるか」の4つを踏まえ、臨床における評価と治療にどのような意味を有しているかを理解できるように記載されています。

著者の熱を感じる部分として、治療方針を考える上で2本の柱があります。1つ目は疼痛を起こしている組織の同定、病態の評価、それに対する「対症療法的理学療法」。2つ目は痛みを発している組織、病態の原因となっているメカニカルストレスを軽減させることを目的とした「原因療法的理学療法」。この2本の柱の重要性を保存的理学療法の究極の目的と説いています。特に「原因的理学療法」の力学的介入は必須とされています。その力学的介入は本書の中に惜しみなく分かりやすく記載されており、力学に苦手意識がある方でも十分理解できる内容となっています。

最後に、本書は山田先生が残してくれた変形性膝関節症の保存療法の考え方を深く学べる書籍であり、加えて75分の力学に関する特典映像が無料視聴できます。臨床で変形性膝関節症に関わる時に、自信を持って介入が出来る一冊で、大変お買い得だと思います。

興味が湧いた方は是非是非、御一読して下さい。



## 職場紹介

### 「みんなのかかりつけ訪問看護ステーション前橋あずま」

金子 早奈江

株式会社デザインケアは名古屋市に拠点を置き、24時間365日対応の訪問看護ステーションを運営しております。法人代表は看護師であり、病気に休みはないとの思いから、全国の隅々まで24時間365日対応の訪問看護ステーションを地域のインフラとして整備したいと考え、全国で積極的な拠点展開を行っており、現在11都府県、28事業所があります。

前橋あずま店は2022年4月に開設し、今、3年目に入ったところであり、まだまだ成長途中の事業所です。スタッフは看護師6名PT1名OT1名で、比較的若いスタッフが多いです。土日、祝日も定期訪問をしており、お看取り、緩和ケア、重度の褥瘡、胃ろう・気管カニューレ・尿道留置カテーテル、人工呼吸器が必要な方や認知症に対する精神的なケアなど、あらゆる対応ができます。また、リハビリの対象となる方も、若い方から高齢者まで年齢も介護度も非常に幅広く対応しています。看護師と情報共有しながら、時には同行訪問してお互いの職種の視点から一緒に考えることができ、チームで対応できるのが強みです。

私達が大切にしていることは、その方それぞれの価値観や人生観を一番に考え、最適化したパーソナルサービスを提供することです。利用者様の人生に寄り添い、自分らしく、豊かに暮らしていただくためには、どんなことが必要だろうか、私達に何ができるだろうかと日々スタッフ同士でディスカッションしています。

法人としては地域づくりにも力を入れています。前橋あずま店では、2023年11月から前橋市はつらつかフェ事業に登録し、地域の居場所作りに取り組み始めました。毎月第3土曜日の9時半から開催しています。現代では人と人との繋がりが希薄になり、核家族化が進む中で、多世代の交流は双方にとって良い効果があると感じています。私達は、子供からお年寄りまで多世代が気軽に集い、交流できる場所を提供し、地域のハブ拠点となることを目指して挑戦しています。見学も随時受付けておりますので、ご興味のある方はご連絡ください。



# 後輩理学療法士へ

前橋協立病院

神倉 駿一郎



子どもの頃将来の夢を話すとき、周りでよく出てきたのはプロ野球選手や看護師、ケーキ屋さんだったイメージがあります。しかし高校生になると途端に周りの友人は理学療法士になると言い出し、自分自身も国家資格があれば将来安定しそうと仕事内容もはっきりと分かっていないまま、軽い気持ちで大学に進学・就職しました。そんな自分ですが今では理学療法士という仕事に日々やりがいを感じています。

私が働いている病院では患者様の生活をみるということを大切にしています。入院中リハビリを頑張り、自立していた患者様でも、自宅・地域に戻るとほとんど動かず、閉じこもりの生活になってしまう方が多くいらっしゃいます。これはリハビリへの依存や入院中と退院後の生活の乖離が原因のひとつにあると思います。リハビリ職として日常生活動作を向上させることは重要ですが、その一方で身体機能の高さが活動範囲の拡大に繋がるとは限らず、趣味や役割があることのほうが地域に出やすい傾向にあると言われております（当院の訪問リハビリの研究結果より）。このことから趣味や役割を再構築することで、活動量の増加やその方のQOL向上のきっかけにもなりえるかと思えます。そしてそれが自分から動きたくなる生活に繋がっていき、結果的に身体機能の改善にも繋がっていくのではないかと思います。

2025年問題が間近に迫っており、今後入院日数はさらに短縮され地域でのリハビリ・生活作りが求められます。入院中限られた時間でどんなリハビリを行えば身体機能を向上させられるのか、どれだけ患者様の退院後の生活を想定し、本人や家族、ケアマネジャーなど在宅のサービス関係者等と一緒に考え、共有し、退院してからスムーズに関わっていけるかが大切だと感じます。

私はまだまだ未熟者ですが、後輩の皆様の可能性は冬が抜けたころに見える花の蕾。この先どんな花を開くのか楽しみにしています。今後も患者様のために努力を続けていきたいと思います。よろしくごお願い致します。





## ニュース源流 執筆のお願いとお知らせ

平素より群馬県理学療法士協会ニュース編集部の運営にご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。さて、表題の件につきましてお願いとお知らせがございます。

源流の執筆につきまして、理学療法アラカルトをはじめ、書籍紹介や職場紹介、後輩理学療法士へ等の各コンテンツで執筆していただける方を募っております。

執筆にご協力いただいた登録理学療法士の方には、1つの号につき最大1ポイントまで取得が可能となっております。ぜひ本誌への執筆にご協力していただき、更新ポイントの取得に繋げていただければ幸いです。登録理学療法士の方も、登録理学療法士ではない方も是非執筆してみてください。

執筆にご協力いただける方や施設の方は下記までご連絡お願いいたします。今後とも群馬県理学療法士協会ニュース編集部の活動にご協力賜りますようお願い申し上げます。

<連絡先>

群馬県理学療法士協会ニュース編集部

部長 石関 直忠（医療法人相生会わかば病院）

E-mail : ni19881006@gmail.com



### 第51回基礎講座・症例検討会 開催

令和6年2月4日（日）に群馬大学昭和キャンパス臨床大講堂にて、第51回基礎講座・症例検討会が開催されました。基礎講座では、臨床における動作分析の活用について、藤澤宏幸先生よりご講義いただきました。

対象の動作上の問題点を把握し、改善に導くために重要視されている動作分析について、技術の進歩の中でより身近に様々なデバイスが利用できるようになってきており、臨床場面での動作分析の実際やデバイスの活用方法に関してご講義いただきました。

また、症例検討会では、美原記念病院 川上航先生、井上病院 都丸竜矢先生、日高リハビリテーション病院 根本猛先生、群馬大学医学部附属病院 濱田啓介先生より、肉眼的な観察やデバイスを用いた分析など、臨床場面で活用可能な動作分析の実際に関して報告していただきました。

## 介護予防推進に資する指導者養成研修会 開催

令和6年2月15日（木）、2月20日（月）にオンライン形式にて群馬県 POS 連絡協議会主催の介護予防推進に資する指導者養成研修会が開催されました。

講義では「介護予防の推進生活支援体制整備事業の目的と役割 そしてこれから」をテーマに高崎市第1層生活支援コーディネーター 目崎智恵子氏より、介護保険制度の主な改正の経緯を含め、地域資源を活用し広く支援していくことの重要性について、わかりやすくご講義いただきました。

また、生活支援体制整備事業の概要や目的、生活支援コーディネーターの役割、地域リハビリテーション活動支援事業の意義や実施に向けて持つべき視点について、ご講義いただき、多くのことを学ぶことができました。

これからの地域づくりについて専門職から住民に向けてサービス提供するだけではなく、NPO や商店街、スーパーマーケット等の地域のすべての資源を使用する視点をもつことや、住民主体の地域の基盤づくりが重要であると学びました。

## 令和5年度協会指定管理者（初級）研修会 開催

令和6年2月16日（金）、協会指定管理者（初級）研修会「EPDCA サイクル・管理者のあり方について」が開催されました。

今回の協会指定管理者（初級）研修は Zoom にて開催されました。前半は、篠原智行先生より PDCA サイクルについてご講義いただき、改めてマネジメントの重要性を学ぶことができ、管理という面だけでなく日々の診療にも活かせる内容でとても充実した講義でした。

後半は「新入職員の残業削減」をテーマにグループディスカッションを行い、今までの経験やそれぞれの職場の現状を、講義で教わった PDCA サイクルに当てはめ、具体的な解決策まで導き出すことができました。（医療法人 相生会 わかば病院 星野 文哉）

## 第53回技術講習会 開催

令和6年3月3日（日）、第53回技術講習会が高崎健康福祉大学にて対面形式で開催されました。

「腰痛に対する理学療法」をテーマに、腰背部疾患に対して様々な研究活動や報告をされている、桐蔭横浜大学の成田崇矢先生より、腰痛に対する基礎的な理論や解剖学、疼痛のメカニズムをわかりやすく解説していただきました。また、技術について、基本的なデモンストレーション・実技指導をしていただき、臨床で実践していきたい実技を学ぶことができ、大変貴重な機会となりました。



## 令和5年度中毛ブロック施設間連絡会 開催

令和6年3月8日（金）、令和5年度中毛ブロック施設間連絡会が、群馬医療福祉大学本町キャンパスとZoomによるハイブリッド形式で開催されました。「臨床研究の進め方～学会発表や論文投稿を検討中の方へ～」をテーマに、事前に実際に職場で直面している悩み事を参加者から集め、群馬医療福祉大学 村山明彦先生より、どう臨床研究を行っていくのか、集めたサンプルデータをどのように解析していくのか、解釈の方法をどう進めていくのかについて、わかりやすくご講義いただきました。



臨床研究をするにあたって直面している困り事や悩み事を解消することができ、再度、自身の職場の臨床研究について考えるきっかけとなり、とても有意義な時間となりました。

## 令和5年度第2回事例検討会（後期研修E講座） 開催

令和6年3月10日（日）、令和6年度第2回事例検討会（後期研修E講座）が開催されました。公益財団法人脳血管研究所美原記念病院の平石慧太先生より「脳幹出血後に生じた多感覚統合不全に対し、感覚の再重みづけのアプローチを行い、手放し歩行が自立に至った症例」について、桐生地域医療企業団桐生厚生総合病院の山本瑞季先生より「右外果疼痛の軽減と、転倒予防として歩行の安定性向上が得られた症例」について症例発表がありました。私自身、脳出血疾患の経験が少ないため大変勉強になりました。今回の事例検討会で得たことを、今後の診療に活かしていきたいと思えます。

（医療法人 相生会 わかば病院 高崎 翠）



## 会員動向

令和6年6月19日現在

会員数 2,089名、休会 373名、施設数 401施設

# ニュース收受

|           |                              |              |
|-----------|------------------------------|--------------|
| 2024/3/4  | 広報誌「かくどけい」Vol.144            | 熊本県理学療法士協会   |
| 2024/3/4  | JPTA NEWS Vol.347            | 日本理学療法士協会    |
| 2024/3/8  | 群なんれん 新刊 90号                 | 群馬県難病団体連絡協議会 |
| 2024/3/12 | 滋賀県理学療法士会ニュース No.224         | 滋賀県理学療法士会    |
| 2024/3/12 | 山梨県理学療法士会会誌 No.162           | 山梨県理学療法士会    |
| 2024/3/13 | 理学療法京都 No.53 2024            | 京都府理学療法士会    |
| 2024/3/22 | 兵庫県理学療法士会だより No.203          | 兵庫県理学療法士会    |
| 2024/3/23 | 群馬県言語聴覚士会ニュース 75号            | 群馬県言語聴覚士会    |
| 2024/3/28 | 群馬県医師会報 No.908 2024 Mar.     | 群馬県医師会       |
| 2024/4/1  | 和歌山県理学療法士会ニュース No.101        | 和歌山県理学療法士協会  |
| 2024/4/1  | 山口県理学療法士会 創立50周年記念誌          | 山口県理学療法士会    |
| 2024/4/5  | 岐阜県理学療法士会学術誌 第28号            | 岐阜県理学療法士会    |
| 2024/4/9  | 茨城県理学療法士会令和5年度 No.4 (No.183) | 茨城県理学療法士会    |
| 2024/4/15 | ケアマネ群馬 No.133                | 群馬県介護支援専門員協会 |
| 2024/4/19 | 会報 群臨技 482号                  | 群馬県臨床検査技師会   |
| 2024/4/19 | 秋田県理学療法士会ニュース第212号           | 秋田県理学療法士会    |
| 2024/4/22 | REGAC Vol.15                 | 広島県理学療法士会    |
| 2024/4/30 | 秋田理学療法 VOL.31、No.1、2024      | 秋田県理学療法士会    |
| 2024/4/30 | 四国理学療法士会学会誌 第45号             | 四国理学療法士会     |
| 2024/4/30 | JPTANEWS Vol.348             | 日本理学療法士協会    |
| 2024/5/7  | 熊本県理学療法士協会設立50周年記念誌          | 熊本県理学療法士協会   |
| 2024/5/7  | ゆきわり草 No.207                 | 新潟県理学療法士会    |
| 2024/5/7  | 群馬県医師会報 No.909 2024Apr.4     | 群馬県医師会       |
| 2024/5/8  | 愛知県理学療法士会ニュース 213号           | 愛知県理学療法士会    |
| 2024/5/9  | 群馬県作業療法士会ニュース「からっ風通信」第156号   | 群馬県作業療法士会    |
| 2024/5/29 | 群馬県医師会報 No.910               | 群馬県医師会       |

## \*\*\*編集後記\*\*\*

昨年度、源流への執筆について多くの先生方にご協力いただき、誠にありがとうございました。今年度、医療・介護報酬改定があり、お忙しい中、執筆を快くお受けいただいた先生方、施設の方々には心より感謝申し上げます。

本誌でも案内を出させていただきましたが、源流への執筆を随時募集しております。臨床での技術や知識、後輩への想いなど発信する場にしていただければと思っております。また、1人職場や新設された事業所の方で、どのような職場や施設で働いて、どんな業務にあたっているのか発信、宣伝する場として活用していただければと考えています。

皆様、ぜひこの機会に執筆してみたいかでしょうか？

石関 直忠